

お茶の水女大家政 横田 明子

目的 演者はこれまでの研究において、国民健康保険加入世帯の医療費における世帯負担率の全国分布を示し、その中でも特に、世帯負担率が極端に低い、または極端に高い市町村についての負担率値の詳細な分析を「寄与値」という概念を導入して行なってきた。今回は、平均的な世帯負担率をもつ市町村について、その全国分布を展望し、これを各県ごとに算出し直して平均的世帯負担率値を示す市町村の所在を明らかにしたい。また、特に平均的世帯負担率値を示す市町村の多い地域について、そのよってきたる原因の解明を行なうことも目的とする。

方法 資料は全国3,272市町村が保険者として厚生省に提出した「国民健康保険事業状況報告書(年報)」の昭和56年度分および昭和58年度分を用い比較検討する。世帯負担率はこれまでと同様、各市町村ごとに一世帯当りの医療費中に占める一世帯当りの保険税と実費一部負担金の合計額の割合として算出し、 $M \pm 1\sigma$ 以内の市町村を都道府県単位で集計する。そして、各都道府県に含まれる全市町村中に占めるこれらの市町村の比率をオウジヤイブ図に示し、特に比率の高い地方について、その詳細な要因の分析を行なう。

結果 平均的世帯負担率値を示す市町村の多い都道府県については、主に北陸地方および中部地方の辺りが重要である。また、その原因について、いくつかの興味深い特徴が得られた。